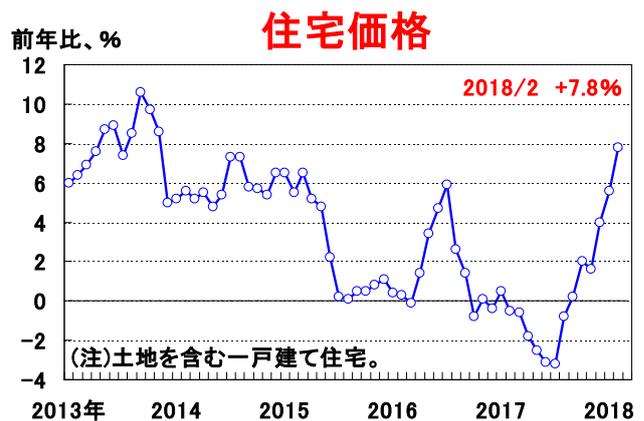
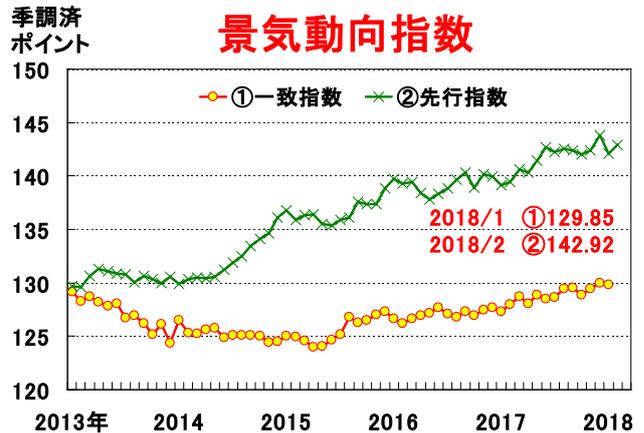
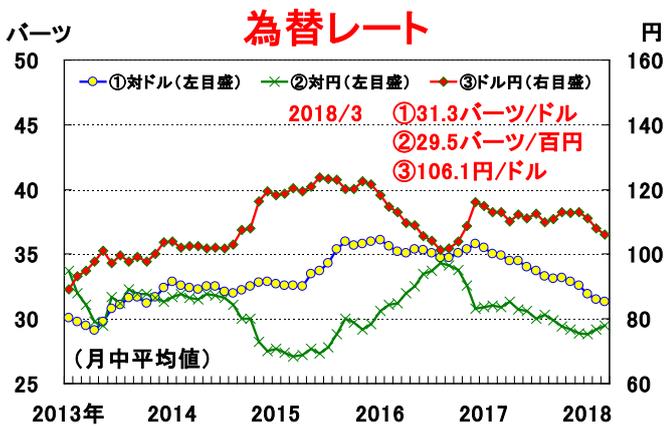
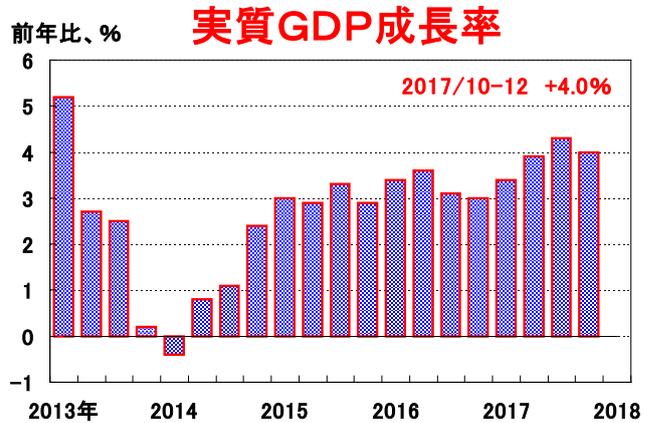
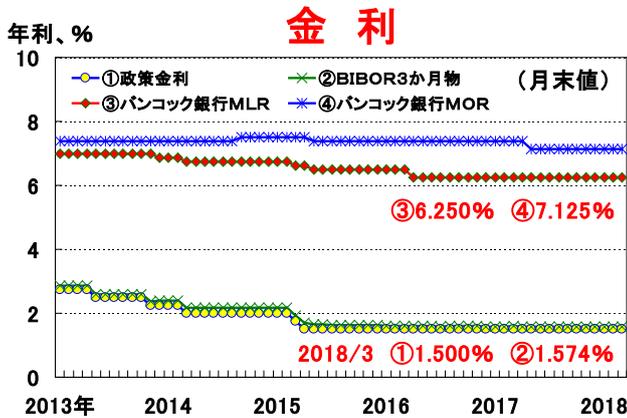


グラフで見るタイ経済 2018年4月号(No. 106)

タイ景気は、家計部門にやや弱含みの動きがみられるが、緩やかな回復基調にある。2月の個人消費指数は前月比-0.1%と、サービス消費の減少もあり、2か月連続で下落した。一方で、同月の輸出は前年比+10.3%と、日本向けの増勢拡大もあり、2か月続けて2桁増となった。また、主力産業の自動車の生産台数は2月に前年比+15.4%と、輸出向けの持ち直しを背景に、前月(同+9.2%)に比べて伸びが高まった。3月の企業景況指数も53.3(中立水準は50)と約5年ぶりの高水準となり、企業マインドも足元で顕著に改善している。



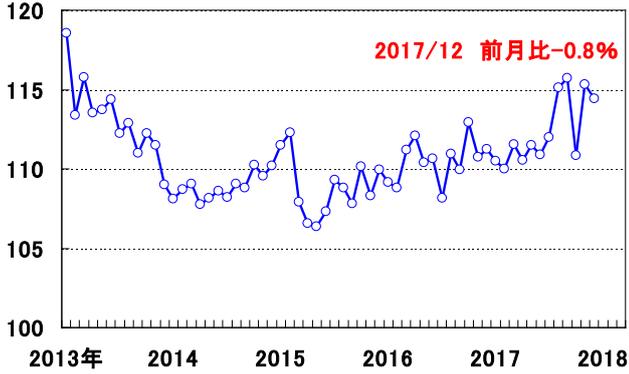
【今月のトピック:加速するスマートシティ計画】タイ政府は、経済の高度化戦略である「タイランド4.0」の一環として、スマートシティへの投資を進めている。2016年にはプーケット、2017年にはチェンマイとコンケンでスマートシティ計画が開始された。プーケットは国際的な観光拠点を目指す一方、チェンマイではロボット技術や情報通信技術を活用したスマート農業を普及させる計画である。コンケンに関しては、医療や国際会議等の分野で高度化を目指した投資が実施される。以上の3か所はパイロット・プロジェクトであり、今後、タイ国内の多くの地域でスマートシティ化が実施される予定である。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

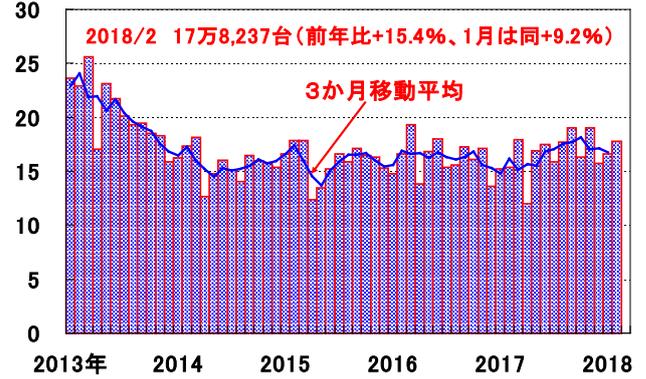
季調済
2000年=100

工業生産指数

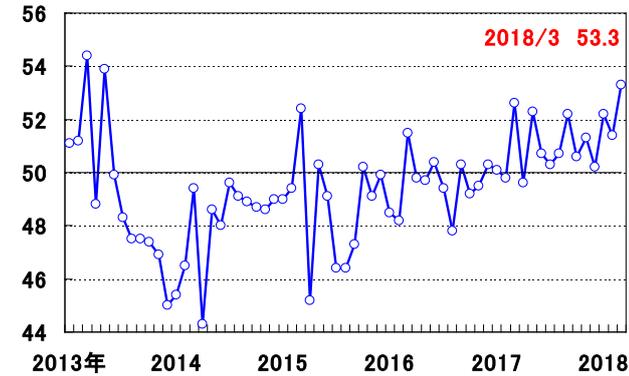


万台

自動車生産台数

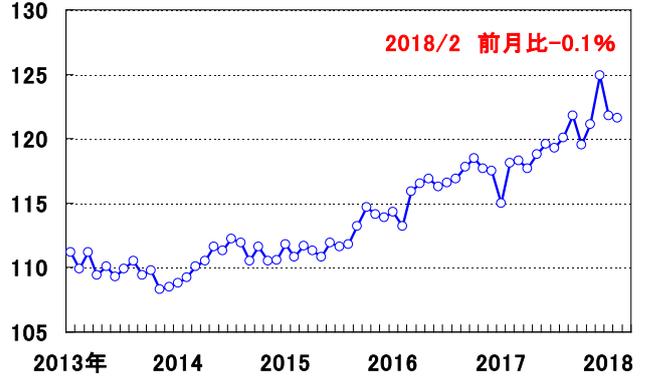


中立水準=50 企業景況指数(BSI)



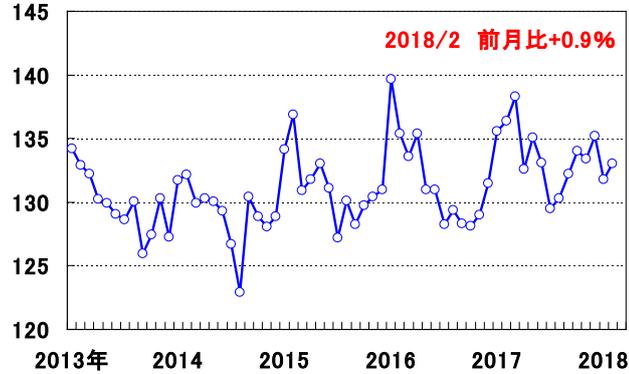
季調済
2000年=100

個人消費指数



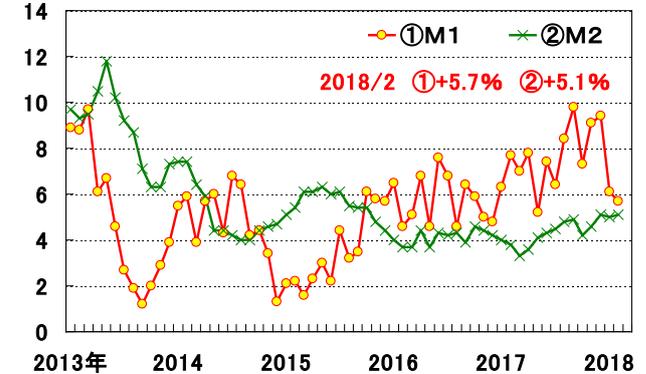
季調済
2010年=100

民間投資指数



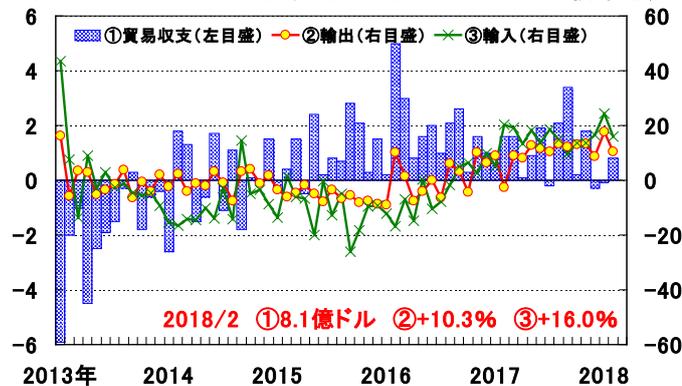
前年比、%

マネーサプライ



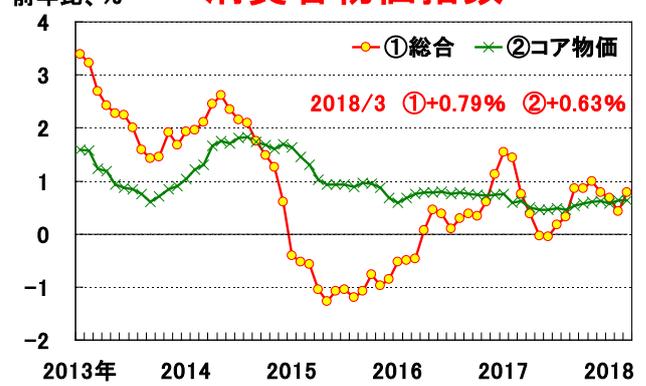
10億ドル

貿易収支



前年比、%

消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (FTI)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。